

“水の都とやま”のシンボルに 「神通回廊」を！

「市議が語る“水の都とやま”への思い」

- 出席者■
富山市議会議員より
- 小沢 正明さん
 - 佐伯 光一さん
 - 柴 義治さん
 - 志麻 愛子さん
 - 長尾 憲二さん
 - 松本 弘行さん
 - 丸山 治久さん
- (五十音順/写真左上から)



Yoshiharu Shiba
1944.12.3生
社会民主党



Koichi Saeki
1949.6.3生
自民党



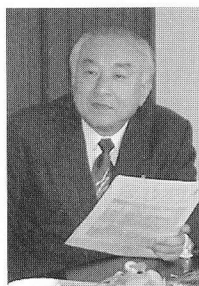
Masaaki Ozawa
1944.4.11生
公明党



Haruhisa Maruyama
1951.6.28生
自民党



Hiroyuki Matsumoto
1938.11.13生
自民党



Kenji Nagao
1943.1.30生
民政クラブ



Aiko Shima
1947.9.13生
市民派クラブあゆみ

■コーディネーター■ 中村孝一（グッドラック発行人）

中村 今日春の日差しを浴びた松川茶屋のカフェテラスを眺めながら、夢を語っていただきます。テーマは「神通川本流跡に「河川回廊」を創出しよう」です。

川を演出しながら 富山らしい街づくりを

松本 富山市は神通川と常願寺川には生まれ、常に洪水との闘いであり、水は親しむというより怖い存在でした。反面、水は米作りに欠かせませんから、各所で信仰の対象にもなっています。考えてみれば富山は水と縁が切れないのです。富山市は10年後の新幹線乗り入れに対して、どのような魅力ある街づくりをするか。いたち川や松川をう

まく演出し、富岩運河につなぐという構想はスケールも大きく、市民に水を身近に感じさせる街づくりになりますね。私も河川内の散歩コースをとくときを選びますが、連続していないために路上にでなければなりません。船を通すためにも河床を掘り下げ、遊歩道を整備すれば市街中心部に思わぬ静寂な水辺が出現します。結構あるステンドグラス欄干の橋の魅力も発見できます。河川内遊歩道（リバーウォーク）の魅力に着目し、それを市民や旅行者にアピールするというのはとてもいいアイデアですね。

中村 河床の掘り下げにより洪水対策も一層万全になる。「河川回廊」の創出は、車社会にあって、珍しく自動車交通から隔離され、むしろテーマパーク

のような質の環境を県都・富山市の都心部に創り出すことができるんですね。また、「河川回廊」が誕生すれば、富山市中心部と富岩運河、東岩瀬間を車の危険や信号に止められることなく自由に回遊できるようになり、神通川から生まれた富山の歴史を川の中から訪ねることもできるようになります。市役所や県民会館、オーバードホール、体育館といった文化施設、富山城などの歴史的地区とも階段、スロープ、建物内のエレベーターでアクセスでき、川を中心にした都市軸という新しい展開が可能になってくるんですね。海から富山市中心部への船の往来も復活させることができるようになります。

人々とともに 変わり続けてきた川

佐伯 水を生かした街づくりはいままで考えたこともありませんでしたが、たしかに水は人の気持ちを和ませてくれるところがあります。私は富岩運河

河床の掘り下げにより 洪水対策も一層万全に

都会の混雑や世俗的な世界から 隔離された峡谷にも似た「河川回廊」

を往復で40分か50分かけて何回も歩いたことあるんですけど、あそこは全部散策路もありますし見違えましたね。いまおっしゃった松川、いたち川の遊歩道をつなぐために河床を掘り下げるには、橋台の補強が必要になってくるでしょう。私は20年前にこのしゅんせつをしたことがあるんですが、それはひどいものでした。一輪車に冷蔵庫に自転車、テレビまでなんでも捨ててあった。いまは大分良くなりましたね。市民に自分たちの街の歴史を伝えていくことは間違いなく大切なことだと思います。ここに舟橋があったことなんて、いまの若い子たちは知らないでしょうからね。

小沢 私は静岡の生まれなんですが、川といえば柿田川の大湧水のイメージ



峡谷にも似た空間

たとえばいたち川から水をひいて、幼い子供たちやお年寄りがたわむれるせせらぎを作ったり、もう少し水に親しむ機会があればいいですね。いたち川には飲み水の湧水もありますがそうい

なんです。それからもうひとつは三島に源平川っていうのがあります。ここも、20年ぐらい前まではドブ川だったんです。それをきれいにしまして。私が見に行った時は、子どもたちがパンツ一枚で入ってましてね。街の真ん中でそういうことができるのはすごいな。

中村 アメリカのテキサス州にあるサンアントニオという街は、川の中に街を作っています。道路面の下に川の街が広がっているんです。そこには1キロぐらいの範囲にホテルやレストラン、カフェが川に面して並んだ商業的に賑わっている地区と、花や大木がおい茂る美しい自然あふれる地区があります。治水をしっかりとやれば、富山でもじゅうぶん可能です。もしそういう個性の

ある街ができれば、日本中から大勢の人々が見に来るでしょう。サンアントニオはコンベンション都市として成功し、世界中から年間1,400万人も訪れるそうです。そこに住む人々の「夢」と「やる気」が魅力的な街を創造していったんですね。

長尾 私はずっと松川を見て、遊んで育ってきました。いま、「水の都」のシンボルに「河川回廊」を創造しようというときに、それにフィットするようにな、いわゆる自然があり、文化があり、ガラス工芸のような芸術がありというふうに、周辺環境とのバランスを考えて進めていったらいいと思います。

暮らしの「匂い」が 観光的魅力を生む

柴 「河川回廊」を、ということをきいて、正直衝撃を受けたというか、すごいなと思いました。シンボリックな観光や集客と平行して、市民が生活の中で水というものをどうとらえていくか。

何本か入ってるんですが、そういった小川をたとえばサンアントニオなんかは、滝にして落としてるんです。歴史を大事にしているんですね。大泉だとか、泉町とか、清水とか、水のついた町や橋がいっぱいありますけど、あーいった歴史や伝統を川を整備する時に生かしたら良いですね。

柴 いたち川沿いには芝居小屋ができたり、富山で一番最初の繁華街だったんですよね。

松本 たいへん風情のある町でしたが、今はだいぶ改修されてしまっただけで、影をとり戻していききたいですね。

志麻 いまも住民の皆さんが自分たちの好きな花や木を植えているからいつ歩いてもいろんな花が咲いてたり、いろんな木を楽しめますよね。延命地蔵のところには白い桜があるんですよ。それがすごくめずらしいとか。

柴 花見シーズンに歩いて、いたち川沿いには長屋の庭先を歩いているようなそういう雰囲気がありますね。人々の会話が伝わってくるような。

自然、文化、遊びがバランスよく同居した水辺空間を

つたものが意外と知られていない。地元の人々が水を大切にしてもらえるように、生活の中において何げなく馴染んできた「水音」を大事にしたり。

中村 松川にも江戸時代からの小川が

滝の音や小鳥のさえずりが聞こえる川べりに魅力的なカフェを！

松本 私たちが旅にいつでも、やっぱり庭先に何か植えておられるそういう家がずっと続いている小路には人間的な魅力を感じますね。その町の格調というものを感ずることがありますよね。

川べりをもっともっと楽しもう

志麻 新潟から一度富山へ視察にこられたんですが、街の中心に松川・いたち川があることにすごく感動されて。まずは松川・いたち川・富石運河のいまある街の価値を発見しながら、私たちがちゃんと説明できるようにしなければと思いました。

長尾 この「河川回廊」の幹の部分工夫していくことですね。それを

生かす環境を周辺施設とのつながり意識しながらやっていくと、光輝いてくるんじゃないかと思えますね。

志麻 いまは川べりを楽しい空間にしたいですね。もっと若者たちが音楽を楽しんだり、そういうところがあってもいいのと思うんですね。富

石運河の環水公園だってそう。私前からいってるんです、あそこね、不良中年たちが楽しめるようなレストランをつくるとかこういう楽しいことをやってほしいんですよ。

小沢 観光議員連盟の話し合いでも、鱒寿司を食べられるところがあつたらいいなと話してまして。自分の生まれした静岡市にも安倍川があつて、そのふちにあべかわもちを売る店があつて、そこが一つの観光コースになっている

んです。そこで大事なものは、お店から川面がみえることなんです。

中村 松川も河床を掘り下げ、洪水対策をしっかりとできれば、将来、サンアントニオのように、リバーウォーク沿いにレストラン、ホテル、ショップといった商業施設を始め、音楽が楽しめるリバー劇場や、花と緑あふれる森林公園の創造さえも可能になります。

大人だって川へ入りたい 市民の意識を盛り上げよう

志麻 それから、私たちは小さい頃のように、川へ入りたいんです。いたち川や松川をキレイにしたいっていう人たちに声をかけて、一度川の中に大人が堂々と入れるようなそういう機会をつくつたらいいなと思うんです。地元の子供たちは、総合学習の時間にいたち川に入つてそこでゴミをひらつたり、魚をつかみどりしたりみんなすごく楽しんでるんです。私たち大人だって、川へ入りたい(笑)。ポラントニアでいい



川べりの魅力的なカフェ

んです。みんなが入つてみたら、川を大事にしたいという思いが強くなって、それがまたいろんな力になるんじゃないかなと。

丸山 10年先に新幹線がくる。そのときに富山の街がどうなっているか。「水の都」をつくるには、まず歴史文化を市民の皆さんに知っていたらいい、市民で盛りあげなくては。いままで私たちもこういうことが意識の底にあつたといえますか、こうしてお話をしたりすることで、ある程度みえてきた部分があります。これからどうやっていくかということを考えていくには、もう少し「水の都」ということばの市民権をえられるようなことを考えなくては。私も観光議員連盟でも、もっと話し合っていくことが必要ですね。

いまずぐにできること まず意識からスタートです

長尾 何よりもまず「意識」からスタートですね。このような集いを重ねていかねばと思いました。「神通回廊」をつくるためには協議会を作つて、情報交換していくということが大事ですよね。

小沢 それから、こういった富山の川の歴史や情報をインターネット上でももっと流すべきだと思います。

中村 私たちは「神通回廊」というリバーウォークを創造することによって、車が入つて来れない、騒音のない、ベニスのような世界を街のど真ん中に持つことができるんです。河床を掘り下げ、遊歩道を全部つないで、運河から富山市中心部まで船が行き交い、人も行き交う。川べりのカフェでは、滝の音や小鳥のさえずりに耳を傾けながら、魅力的なひとときを過ごす。そういった賑わいをあわせた別世界を作り出す、っていうことが大事なんです。

志麻 観光議員連盟で歩きましょう。

丸山 じゃあ花見のときに船に乗ってビールのみながら。